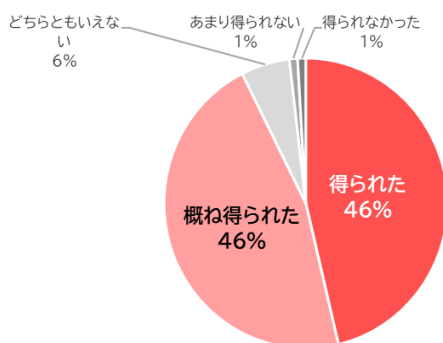
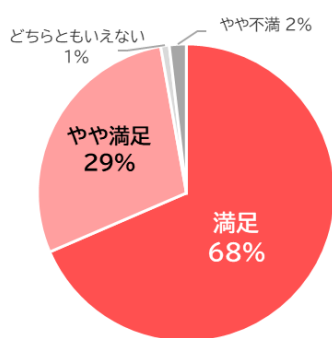


## 「NO!スポハラ」活動 保護者向けオンラインセミナーを開催しました

スポーツを「する」「みる」「ささえる」ための環境づくりを行う JSPPO(正式名称:公益財団法人日本スポーツ協会 東京都新宿区/会長 遠藤利明)は、7月30日に、「NO! スポハラ」活動の一環として保護者向けオンラインセミナーを開催しました。

このセミナーは、テーマを「子どもを『スポハラ』から守る!」とし、子どもたちをスポーツにおける不適切行為<スポハラ(スポーツ・ハラスメント)>から守るため、指導者のみならず、子どもたちのスポーツを一番近くで支える保護者の方を対象に、<スポハラ>に対して関心を寄せていただく、はじめての機会となりました。

### <参加者アンケートの結果>



#### ▲セミナー全体の満足度



#### ▲セミナーで期待した内容は得られたか



当日は200名を超える多くの方にご参加いただき、ファシリテーターの土屋裕睦さん、パネリストの河合純一さん、益子直美さん、三輪記子さんとともに、次の3つのテーマについてディスカッションしました。

- ①スポハラの実状
- ②スポハラはなぜ起こるのか
- ③子どもたちを「スポハラ」から守るために保護者ができること

ディスカッションでは、チャットを用いて参加者にも積極的に関わっていただきました。参加者からは、子どもたちを「スポハラ」から守るために保護者にできることとして、次のような声が寄せられました。

「負けた試合でも『がんばってたね！』と声をかける」  
「良い所をみつけて褒める」  
「保護者の願いを一方向的に子どもに押し付けない」  
「親は子どもにも監督にもその競技自体にもものめり込み過ぎずに、ある程度距離を置き、客観的に見ることも必要」 など

本セミナーでの学びが、参加された方にとって、子どもたちを「スポハラ」から守るための一助になることを願っています。

## ■パネリストの発言内容(一部)



パネリスト  
益子直美さん

子どもは親をがっかりさせたくないで、スポハラの被害に遭っていたとしても隠そうとする子もいると思う。自分自身もそうだった。あるとき、どうしても我慢できなくてバレーボールを辞めたいと母親に相談した時に、辞めることに大賛成してくれて、全面的に私のことを受け入れてくれた。あの時、母親が味方になってくれたことは今でも忘れられない。ぜひ、保護者の方には子どもたちの一番の味方でいてあげてほしい。

スポーツの良さのひとつには、「正々堂々と負けられること、失敗できること」があげられる。つまりチャレンジしたことによる経験が得られる。「勝つこと、いつもうまくいくことだけがスポーツの良さじゃない」という視点を保護者の方にももってほしい。



パネリスト  
河合純一さん



パネリスト  
三輪記子さん

スポハラにあたるかどうかの境目は、シチュエーション（状況）により異なるため難しいが、例えば暴言であれば、言われた言葉が選手の競技力向上等プラスに働くかどうかも見極める一つのポイント。いくら指導者が選手のことを思っていたとしても、「バカ」と言われて、競技力があがるとは考えられない。選手として成長するために本当に必要なことを考えれば、そこで導き出されるものは暴言ではないはず。

## ■オンデマンド配信

本セミナーの様子は、下記「NO！スポハラ」活動特設サイトにてご覧いただけます。  
<「NO！スポハラ」活動特設サイト>

<https://www.japan-sports.or.jp/spohara/event/#cont03>

## セミナー概要

- ◆開催日時: 令和 5(2023)年7月 30 日(日) 10:30~12:00
- ◆開催形態: オンライン(Zoom ウェビナー)形式
- ◆対 象: 小・中学生の子どもをもつ保護者
- ◆テ ー マ: 子どもをスポハラから守るために保護者が知っておくべきこと
- ◆参加者数: 210 名
- ◆登壇者

### 【ファシリテーター】

土屋 裕睦 氏(大阪体育大学教授)

### 【パネリスト】

- ・河合 純一 氏(日本パラスポーツ協会常務理事)
- ・益子 直美 氏(日本スポーツ協会副会長／日本スポーツ少年団本部長)
- ・三輪 記子 氏(弁護士)

※「NO！スポハラ」活動とは：

スポーツ界における暴力・暴言、ハラスメント等の不適切行為をなくすことを目指し、JSPO、日本オリンピック委員会(JOC)、日本パラスポーツ協会(JPSA)、日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、大学スポーツ協会(UNIVAS)の 6 団体共同にて、本年度から実施しています。

The poster features a teal background. At the top left, the text "NO!" is written in large white letters, with the "O" replaced by a red circle with a white diagonal slash. Below this, "スポハラ" is written in large white characters. To the right, the text "スポーツ・ハラスメント (暴力、暴言、ハラスメント等)に、みんなが『NO!』と言う社会を目指して" is displayed in white. Below the text are three images: a woman and a man talking, a group of basketball players celebrating, and a wheelchair athlete racing. A white circle with a downward arrow is positioned above the wheelchair athlete image. A small copyright notice "©JPSA/X1" is visible at the bottom left of the wheelchair image.

■特設サイト <https://www.japan-sports.or.jp/spohara/>

#### ◆JSPO(公益財団法人日本スポーツ協会)について

JSPOは、1911年7月に「国民スポーツの振興」と「国際競技力の向上」を目的に、大日本体育協会として創立。日本体育協会を経て、2018年4月1日、現在の名称となりました。

JSPOでは、国民体育大会や日本スポーツマスターズなど各世代を網羅したスポーツ大会の開催、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブなどスポーツをする場の創出、スポーツの楽しみをサポートするスポーツ指導者の育成、最新の医・科学に根差したスポーツの推進など、誰もが自発的にスポーツを「する」「みる」「ささえる」ための幅広い事業を展開しています。また、わが国スポーツの統一組織として、国や60を超える競技団体、47都道府県スポーツ・体育協会など、様々なスポーツ関連団体・組織や個人と連携しています。


▶ ホームページ <https://www.japan-sports.or.jp/>

▶ 事業概要パンフレット

<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid57.html#09> (通読約15分)

▶ JSPO中期計画2023-2027

<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid149.html#01>

 **JSPO** スポーツと、望む未来へ。  
Japan Sport Association

We support sport in Japan

JSPO OFFICIAL PARTNER

 **asics**

**大塚製薬**

 **mizuno**

三井住友海上  
**MS&AD** INSURANCE GROUP

**LOTTE**

 **ニチバン**

**日本文化出版**

 **図書印刷**

**時事通信**

 **THE SUPER SPORTS**  
KEBIO GROUP